

## 金沢 Jazz Street2017 石川県立音楽堂のオープニングコンサートに寄せて

世界で活躍するジャズ・アーティストでジャズの歴史に名を残せる人はどれほどいるのであろう。ニューヨーク在住のジャズピアニスト・秋吉敏子は紛れもなくその一人であらう。17歳でプロデビューし、27歳で渡米。昨年、音楽生活70周年を迎え、ニューヨーク・リンカーンセンターでビッグバンドを率いて一夜限りのライブを開催するなど87歳の今も現役で活躍する伝説のジャズ・アーティストなのである。

国際ジャズ名声の殿堂入りを果たし、全米ジャズ界最高の栄誉、国立芸術基金「ジャズ・マスター」の称号を贈られた唯一のアジア人でもある。2013年に上原ひろみがダウンビートマガジンの表紙を飾ったと大いに話題になったが、その33年も前に秋吉敏子はその表紙を飾っているのだからその偉大さは言うまでもない。

広島から委嘱され、自ら作曲した「ヒロシマー終焉から」の第4楽章「ホープ」は、世界から争いがなくなるまで演奏し続けると強い決意をもって演奏し続けるその音楽家としての姿勢にも人々は秋吉敏子を敬愛してやまない。

その秋吉敏子が石川県立音楽堂のコンサートホールにニューヨークからやって来るのだ！クラシックホールでの演奏は滅多にない貴重な機会。このチャンスに秋吉敏子のピアノソロの世界を堪能してほしい。

一方、37歳のデンマーク人・若手ジャズヴァイオリニスト・マッズ・トーリングは2016年のダウンビートマガジン誌の批評家選抜のライジングスターヴァイオリニストの第一位として選出された注目のアーティスト。ボストン・バークレー音楽大学を主席卒業。在学中、デンマークのマーガレット女王から奨学金を贈られている。卒業後、Turtle Island Quartetで活躍。グラミー賞、グラミー賞最優秀アルバム賞と2度の受賞に輝いているからその実力のほどは言わずもがなというところである。そのマッズ・トーリングとオーケストラ・アンサンブル金沢との共演の楽曲は彼が書き下ろしたもので日本初演となる。楽曲としても素晴らしく、彼のヴァイオリンの演奏も圧巻である。

秋吉敏子との世代を越えた共演も今回の楽しみの一つである。ジャズの醍醐味を味わってほしい。

プロデューサー 藤橋由紀子（石川県出身）